

ディボーション質問表

9日(日) 先週一週間のディボーションをふり返ってみましょう。

1. 心に残った箇所、教えられた箇所に何か共通点はありましたか？
2. その中で一番心に残っていることは何でしょうか？
3. 教えられた事をどのように先週の歩みの中に生かせたでしょうか？ その事を誰かに分かち合ってみませんか。

10日(月) ヨハネの黙示録 6:1~8

6~16章にかけて、七つの封印の裁き、七つのラッパの裁き、七つの鉢の裁きが断続的に続きます。ここまでは新約聖書全般に渡って、「神の恵み」が中心となってきました。しかし、この黙示録に至っては「神の裁き」が主題となってきます。白い馬は「神のきよめの開始」を、赤い馬は「政治経済の混乱」を、黒い馬は「食糧問題の深刻化」を、そして青い馬は「それら諸問題と疫病による死」を象徴していると考えられます。

1. 今の政治、経済、また文化がいかに良いものであっても、それが永遠に続くことはあり得ません。だとすれば、私達にはどんな心構えが必要でしょうか？
2. この預言はまだ実現してはいませんが、それを想像させる予兆が世界でも今起きています。これらの裁きからあなたは最近のどんな事件を思い浮かべるでしょうか。

11日(火) ヨハネの黙示録 6:9~17

この箇所から三つの事がわかります。一つ目は神が忍耐を持って裁きを遅らせてこられた事。二つ目は信仰の故に殺された人々の祈りに応えて、神は正しい裁きをされる事。三つ目はそれでもキリストの再来までは信仰のためにいのちを失う人々の存在することです。またかつてないような異常現象を見て、人々は自ら死を願うほどになります(ヨエル2:31)。

1. 神の裁きの前には、どんな人も身分も関係ありません。私達は人を外見で判断し、無駄な優越感や劣等感を持つたりしていませんか。
2. 神にあって、「ムダ死に」は決してありません。何か恐れているものはあればこの基本に立ち返ってみましょう。

12日(水) ヨハネの黙示録 7:1~8

七つ目の封印を解く前に、神は「終わりの時のユダヤ(イスラエル)人達」のことを書き留めました。現在ユダヤ人といえば、政治、経済、メディア、芸術、科学の分野で世界の注目を集めていますが、終わりの時には「彼らの信仰」が世界の注目を集めるようになります。彼らが形式的ユダヤ教から、真の信仰へと回心するまで天使が世界を守っています。

1. 四人の御使いはすぐにでも世界を裁くことができますのですが、今は止められています。なぜでしょうか。
2. イスラエルの救いは神の預言の一部です。今日イスラエルの救いのために祈りましょう。

13日(木) ヨハネの黙示録 7:9~17

この大群衆は世の終わりに信じ、患難時代を耐え抜いた信者達の群れと思われる。彼らは全世界のあらゆる人種からなっています。そして19章の子羊の婚宴に招かれる招待客として神からの報いを受ける人たちです。

1. 9節の子羊への礼拝はキリストのエルサレム入場を思い出させます。あなたは今日どのように主を礼拝しますか。
2. 神が彼らの目の涙をぬぐいました。もはや悲しみはありません。この言葉はあなたの心にどんな希望を与えますか。

14日(金) ヨハネの黙示録 8:1~5

七つ目の封印が解かれた後、半時間ほどの静けさがあります。この静けさの中には、裁きへの神の心が感じられます。そして、裁きは次の段階に入ります。「封印の裁き」よりも激しい「ラッパの裁き」がさらに短い期間で集中的に起きます。しかしこれは「御国が来ますように」と祈り続けた聖徒達への答えでもあるのです。

1. ここでは、祈りが香の煙にたとえられています。あなたの祈りが神の前に立ち上っていることを意識しましょう。
2. 神の義が表されるためには、私達の祈りが欠かせません。自分たちの祈りの生活をもう一度吟味しましょう。

15日(土) ヨハネの黙示録 8:6~13

一つ目から四つ目のラッパの裁きは、地上、海、川と水源、太陽、の順番で起こります。「神の裁きはどこにあるのか。地球は今も昔も変わらない。」という人々に、モーセの時代、エジプトに起きたような裁きが続きます。しかし、パロの心はかたくなになってしまいました。この時代の人々はどうでしょうか。

1. 神の恵みが支配していた時代には人は気ままに生き、その言葉に耳を貸しませんでした。では、裁きを見せられた人の心はとなると想像しますか。
2. 「福音の時代」は終わり、「わざわいの時代」が支配するときがきます。その前に私達はそれぞれ何をするべきでしょうか。